# 青嶺高新聞

発行所
美祢市大嶺町東分
山口県立青嶺高等学校
新聞部

## 大切にしたいもの

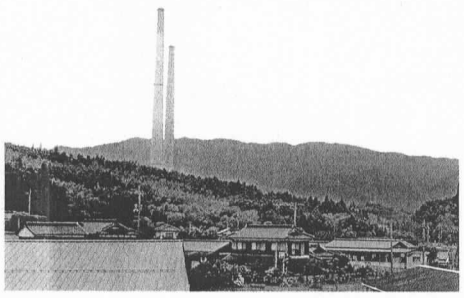
校長　藤井勇夫

### 一　ふるさとの情景

青嶺高校のある美祢市には、たくさんの美しい情景があります。中でも、学校から仰ぎ見る白い二本の煙突は、私の好きな情景のひとつです。桜山を背景に、凛々しく屹立(きつりつ)したあの美しい姿は、不思議と私の背筋をピンと伸ばしてくれます。「誠実に、真っ直ぐに」と毎日のように語りかけてきます。

その煙突を保有するセメント会社の副工場長さんのお話では、高い方の煙突が地上二百メートル、短い方でも、百八十メートルにも達しているとのことです。

二本の煙突は、毎朝の高速道路からの遠景も、ある時はひとつとなり、その姿を変えながら、何とも形容し難い美しさを見せ、他の数本の煙突とともに、この地のシンボルとなっています。もしも皆さんが近い将来、ふるさとを離れることがあれば、今は意識の中にはないものであっても、しかし、そっと眠っている大切な情景のひとつとして、いつかきっと甦ることでしょう。数年後、確実に皆さんの母校となる青嶺高校三年間の多くの鮮明な思い出とともに。



この春、第二期生の卒業を祝ってひねり出した駄句をもう一度紹介します。

ふるさとの煙突
　仰ぐ卒業子

### 二　履物を揃えるということ

先日、「前とうしろ」という興味深いタイトルの随筆に出会いました。筆者（浅田次郎氏）は、ソウルを訪れた際、「日本人はなぜうしろ向きに靴を脱ぐのですか」という思いがけない質問に戸惑ったというのです。玄関で靴を脱ぐという習慣のある国は、世界でも日韓両国だけらしいのですが、地理的に近い隣国同士であっても、履物を脱ぐ方向については、正反対のようです。「人の家に来たとたんに帰り支度をしているように感じる」隣人にとって、「帰る時に他者の手を煩わせたくない」日本人の気配りは、いったん脱いだ履物を自分の手で正面に置き直すというもっと丁寧なマナーもあることを説明しても、どうやら不可解な行動に映るようです。

それでも、「前とうしろ」という方向の違いこそあれ、履物を揃えることを大切にする日韓共通の習慣は、間違いなく、世界に誇るべき素晴らしいマナーのように思います。

「あとの人のために」うしろ向きに履物を揃えることはとても大切な習慣です。それはちょうど、野球、ラグビー、バレーボールなどのスポーツで、次のプレーが円滑に運ぶように、仲間のベストポジションにボールを送る動作に似ています。「あとの人のために」「他の人の手を煩わせないように」という他者への配慮は、いずれ、自分自身にも返ってくるものです。

### 三　「生きていること」と「生きていくこと」

もうひとつ深く考えさせられる文章に目が留まりました。徳島県の鈴木綾子さんという女性の短い投書です。東京都内のある小学校から「いのち」についての講演を依頼され、「生きていること」と「生きていくこと」の違いを伝えるために、ご自身の体験をもとに話をされたとのことです。

十三年前、息子さんが突然の病気で入院され、一年半の闘病生活の中で、「生きる喜び」を絵に託して、約百点のCG作品を創作されました。最後まで希望を持ち続け、創作活動に打ち込み、二十六歳で旅立たれたそうです。

実は、その短い文章の中に「る」と「く」の違いについての答えはありません。私は、その日からずっと、その違いとは何かを考え続けていました。そして・・・

今春電気科を卒業したN君が校長室を訪れ、近況報告をしてくれました。N君は、県内の住宅関連会社に就職し、元気に働いています。そして、会社から福島県での被災地支援の募集があり、自分から希望して、郡山市での仮設住宅建設という救援活動に二週間ほど従事したとのことです。

現地で、想像を絶する惨状を目の当たりにして、「今、自分が生きているのは、当たり前のことではない」という事を実感しつつも、住宅建設という仕事をとおして、人の役に立つことの喜びというものも実感していることなどを目を輝かせながら、雄弁に語ってくれました。

どうやら、N君は、福島県で「今、自分は生かされている・いることを実感し、さらに、「生きていく・こと」目標をしっかりと見つけて帰ってきたようです。

N君からのうれしい近況報告のおかげで、「生きている・こと」と「生きていく・こと」の違いが少しばかりわかったような気がします。

## スクールカウンセラーから

原　敬亮

**○今年度もよろしくお願いします**

青嶺高校スクールカウンセラーの原敬亮(はらけいすけ)です。青嶺高校でスクールカウンセラーとしての勤務は2年目となります。

1年生の皆さんは高校生活に、2・3年生の皆さんは新しい学年に馴染みましたか？勉強や部活、各種行事など色々なことがあると思いますが、皆さんの生活がより楽しく充実したものになるよう、お手伝いをしたいと思っています。月に1～2回程度の来校ですが、よろしくお願いします。

**○スクールカウンセラーとは？**

スクールカウンセラーとは、生徒の皆さんがより良く学校生活を過ごせるようお手伝いをする人のことです。

友人関係や部活動、勉強や進路のことなど困っていること、悩んでいることを解決するための力になります。

困っていることがなくても、うれしいとき、楽しいとき、悲しいとき、嫌なことがあったとき、疲れたとき・・・どんなことでも構いません、声をかけることは緊張するかもしれませんが、気軽に声をかけてくださいね。相談室に一人で行きづらいときは友達と一緒に来て下さい。廊下等で見かけたときも、声を掛けてくれるととても嬉しいです。

## 工場見学

### 電気科　二年　O

僕達は、三年生と共にPETとユーエムジー・エービーエス㈱に行った。

PETでは、電気のできる過程を聞いた後、元火力発電所の内部を見学した。内部見学では、タービンや復水器、ボイラの内部など、様々なところを見学した。普段見ることができないボイラの内部を見学できて本当によかった。

UMG-ABSでは、ABS樹脂の製造工場を見学した。ABS樹脂は身近な電気機器に使われていると聞いて、びっくりした。

### 機械科　三年　K

僕達三年生は、神戸製鋼所と西部石油の二社を見学した。

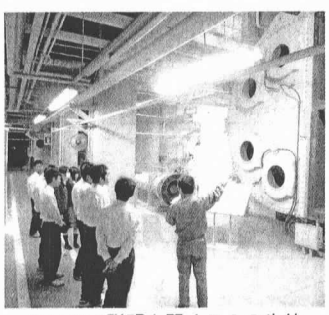
まず、長府の神戸製鋼所に行った。ここでのあいさつは「ご安全に」だった。これは体と心の両方に対しての言葉で、常に相手や自分の安全に注意していなければいけないのだなと思った。

工場の中では材料を熱し、ローラーで延ばす熱間圧延という作業を見ることができた。

次に西部石油に行った。家庭で使う灯油やガソリンから飛行機などに使う燃料まで、たくさんの種類があった。

それぞれが責任を果たし一つの物を作ることは、楽ではないが、とてもやりがいがある仕事だと感じた。この貴重な体験を、今後の就職活動に役立てていきたい。

| 科・年次 | 見学先 |
|---|---|
| 普通科1年 | 山口大学 |
| 機械科1年<br>電気科1年 | TOTO㈱小倉第一工場<br>新日本製鐵㈱八幡製鐵所 |
| 機械科2年 | THK㈱山口工場<br>西部石油㈱山口製油所 |
| 機械科3年 | ㈱神戸製鋼所　長府製造所<br>西部石油㈱山口製油所 |
| 電気科<br>2・3年 | 株式会社PET<br>ユーエムジー・エービーエス㈱ |



PETで説明を聞くE3の生徒

## 芸術鑑賞「知覧・青春」

6月22日（水）の午後、美祢市民会館で、NPO法人劇団道化による「知覧・青春～アイ・アム・ヒア！～」という劇が上演された。

本校生徒職員全員と、美祢高校・市内中学校の生徒職員と、本校保護者の約700人が鑑賞した。

77歳で亡くなった今日子が、60年前に特攻隊員だった恋人の消息を尋ねる物語だ。

愛する人の幸せを願う、若者たちの純粋な気持ちに感動を覚えた。また、戦争は大切なものを全て奪ってしまうことも身にしみて感じた。様々なことを考えさせられた100分間だった。

劇に出演した本校生徒9名と先生2名の熱演も、素晴らしかった。

開校記念行事として、皆の心に色々なものを手渡してくれ、印象に残るものとなった。

## 大学見学

### 普通科　一年　Y

去る6月7日、僕達普通科一年生52名は、山口大学へ見学へ行った。

午前中の二つの講義で、山大おもしろプロジェクト等、色々な事を学んだ。

正午、いよいよ学食体験。メニューが充実しており、どれも美味しいものばかりだった。この学食で毎日食べることが出来る山大生が、うらやましく思えた。

午後は、図書館見学の後、教育・経済・農・理の四つの学部に別れて見学した。各学部で懸命に勉強に励む山大生を見て、僕達はとても刺激を受けた。本当の「大学生」の姿を見たように感じた。

山口大学で受けた刺激を無駄にせず、自分の進路について考えて、勉強に励みたいと決意を新たにした。